



# 南空知1市4町で憲法学習会

## 『求める会』から『進める会』へ 政治を市民の手に!

### 長沼で憲法学習会 1市4町68名が参加



4月15日(日)、「安倍改憲 NO! 南空知1市4町の会」(夕張・由仁・栗山・長沼・南幌)が主催の憲法学習会が、長沼町総合福祉センターリふれで開催されました。

オープニングでは、G ブラザーズの3人がギターで、「(「バラが咲いた」の替え歌で)♪「これまでついた、真っ赤なウソが、あっちこっちから、もれはじめ〜…安倍政権は、もう沢山だ!」♪等などの、替え歌を披露しました。



神谷 裕 衆議

最初に、主催者を代表して由仁の渡辺明さんが挨拶。つづいて共産党南空知地区委員長上田久司さんが挨拶。

急ぎよ駆け付けた、立憲民主党神谷裕衆議院議からは、国会報告がありました。講師の室蘭工業大学准教授清末愛砂

さんが60分にわたって「9条に自衛隊を書き込むとどうなるの?」をテーマに講演をしました。

清末さんは、「9条に自衛隊項が追加されると新しい条項が優先されて、平和憲法が死文化し、自衛官を危険にさらすこととなります。

そして、軍事優先の社会へと日本は大きく舵を切るようになります。『自衛』、『防衛』、『国防』という言葉ほど怖いものではありません。さらに、東アジアの緊張を高めることにもなります」と話を結びました。

事務局から募金(カンパ)の呼びかけがあり、41,214円が集まりました。参加した20代の女性から講師への質問もあり、若い世代も憲法9条を変えることに、疑問を持っていることなどの発言がありました。



**9条に自衛隊を書き込むと新しい条項が優先し  
平和憲法は死文化、自衛官を危険にさらす!**

### 「10区の野党統一候補の実現を求める会」(略称『求める会』)が 「市民と野党の共同を進める10区の会」(略称『進める会』)に改称

4月22日岩見沢市コミュニティプラザにおいて「10区の野党統一候補の実現を求める会」第2回総会が開催されました。総会に先立ち第1部に、弁護士の高崎暢さんが「安倍改憲のねらいと私たちのすすむ道は?」という演題での講演がありました。(概略は後述2面へ)

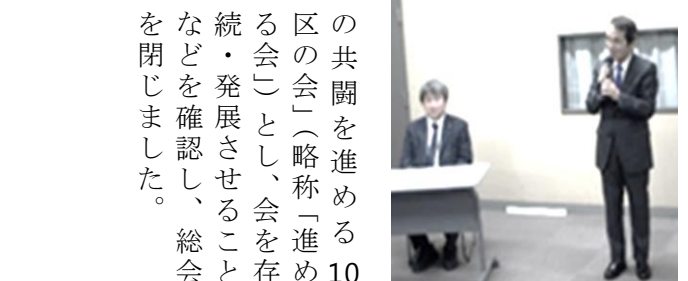
第2部の総会では、事務局より昨年総選挙での10区における野党共同の成果・課題・教訓について提案されました。その主な内容は、「昨年の総選挙では、いわゆる前原クーデタの野党共同の成果・課題・教訓について提案されました。主党、社民党4者間で協定書を結び選挙戦に突入し、10区において、告示後で、

1) によって、2年間積み上げてきた野党共同の実績が一気に突き崩されたかに思われたが、結果的には道段階では、「戦争をさせない市民の風」、共産党、立憲民主党、社民党4者間で協定書を結び選挙戦に突入し、10区において、告示後で、

歴史の上はじめて野党共同が動きはじめました。しかし、野党共同がギリギリまでできなかったこと、政策協定ができなかったことは、選挙区で勝てなかったことの大きな要因であるし、次回に向けての克服していく課題となりました。

挨拶に立った立憲民主党の神谷裕さん、日本共産党の女鹿武さんの両氏とも、国会での6野党の共同のたたかいが大きな成果をあげていることを指摘し、これからも今以上に野党共同を強めていく必要について強調しました。

最後に、「求める会」が憲法改悪を阻止し、政治を市民の手に取り戻すために、名称を「市民と野党



# 「安倍改憲のねらいと私たちのすすむ道は？」

高崎暢さんの講演要旨

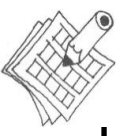
今の安倍内閣の国会運営は、森友・加計問題、自衛隊の日報隠し・裁量労働時間の改ざん・教育への不当介入・財務次官のセクハラ疑惑等々の嘘と欺瞞(ぎま)んで塗り固められている。この間の改憲論議においても、安倍総理は詭弁を弄しながら国民を翻弄している。例えば「災害復旧活動で献身的に任務にあたりている自衛隊を憲法に明示すべきだ」というが、実際に自衛隊が憲法で明示されれば、国外での任務が重点となり、国内の災害時における活動が手薄になる可能性がある。あるいは、宇宙空間を飛行するミサイルが、あたかも頭上を通過していくかの如く、アラートを使って「のイメージ操作をほ

を募らせ、改憲に誘導しようとする手法を使っている。このような論法で改憲を果たそうとすることこそ安倍政権の稚拙さを物語っているところですが、もし、改憲の発議がされ、国民投票という事態になったとしたら、憲法が変えられる危険性が極めて高い。(マスコミやCM等を最大限に利用する)



だから、3000万署名運動の意味が大きい。絶対にこの運動を成功させ、改憲の発議をさせないことが大切である。ともに、頑張りましょう。

## くずさんの 夕張歴史散歩(86)



### 明治維新と藩閥 3

明治維新といえば「薩摩」だ「長州」だと言われますが、果たしてそうだったのか。戊辰戦争という内戦に勝ったというところで、薩長が正しかったのでしょうか。

#### 薩長による藩閥政治

薩摩と長州は常に相携えて近代化を推進したのでしようか。逆にお互いに主導権や利権を争い、事あるごとに抗争をつづけます。藩閥政治の出現です。この藩閥が、その後の明治政府の体制を形づくります。

#### 北海道開拓使を置く

明治政府(太政官制の下での)は、1869年(明治2年)北海道開発に力を注ぎ「北海道開拓使」(初代長官には「鍋島直正」旧佐賀藩主)を置きます。第三代長官黒田清隆(薩摩出身)は、アメリカからケプソン・ライマンなどを招き、道路・河川・港湾・鉄道などの開発基礎事業を強力にすすめ、各種の官営工場を設置していきます。

この開拓使の計画は、1872年(明治5年)から10年間に国費一千万円(当時)と開拓債権二五〇万円、更に管轄下の税金を全て投入して農工商業の振興をはかるという大規模な計画でした。

#### 開拓使官有物払下げ事件

開拓使制度が廃止される直前の1881年(明治14年)、これまで一千四百万円も投じた開拓事業を、黒田は同じ薩摩の五代(才助)友厚という政商に、わずか三十八万余円で、しかも無利子で30年賦という好条件で払い下げるとい、いわゆる官有物払下げ事件が起きます。つまり北海道民のための開発でなく、殖産の名分で薩摩閥を利用した、同郷の政商のための事業だったのでなかったか・・・。



島山和也「かけある記」  
前衆議院議員  
島山 和也

#### もつと領土交渉に力を

元気に道内各地をまわり、先週は道東地方へ。標津町では銘菓「標津羊羹」を口にしながら、鶴居村では薪ストーブのぬくもりに包まれながら、各地の「つどい」に参加しました。どこでも安倍政権への怒りや不満が出されて時間が足りなくなるといわれています。根室市では、千島歯舞諸島居住者連盟のみなさんと懇談しました。領土問題の根本的解決とともに「島に残してきた家財道具などの財産保障を」「墓参や自由訪問を柔軟に、そもそも墓までの道を整備してほしい」などの要求も聞かれました。

この二年で業者二十件が廃業するなど、根室市経済にも打撃が広がっています。ロシアによるサケ・マス流し網漁の禁止などもあり、昨年の総水揚げ量は市制施行後で最低でした。魚がなければ地元の水産加工や運輸業者は仕事がありません。業者に余裕がないため、元島民二世三世が返還運動に参加する時間が取れなくなっている実情も聞きました。

今月二十八日はサンフランシスコ条約が発効し、日本側が千島列島を「放棄」した日。領土問題の未解決が、これだけ元島民や根室市民などを苦しめています。元島民の平均年齢は八十三歳を超え、ロシアとの本腰の交渉を急がなければなりません。米国から旧ソ連軍への武器貸与や、米ソ共同訓練の歴史も判明してきており史実の検証も課題です。昨年、領土交渉について安倍首相に質問した「続き」をしなければ！